

刻まれるとき、揺らぐかたち

ものはひとつのかたちに留まらず、時間のなかで絶えず変化し、現れては消えていきます。

私たちは、流れていく日々の、その移ろいを忘れ、見過ごしているのかもしれない。

柳原義達の作品に向き合う過程を通して、私はかたちが揺らぎ続けることに惹かれていきました。

そこにあったのは、固定された形を生み出すのではなく、見ること、そして作っていく時間そのものを通してかたちを探り続ける眼差しでした。

本展では、柳原の著書「孤独なる彫刻」の思索を手がかりに、彼の作品と言葉を読み解きながら、作家の眼差しについて思考し、異なる表現を同じ空間に重ね合わせることで、視線と時間が交錯する場をつくることを試みました。

作品を通して見えるかたちを深く眺めること。

そのとき、私たちの前にどのような時間とかたちが立ち現れるのか。

揺らぎながら刻まれる世界の姿に目を向けていただければと思います。

2026 年 9 月 1 日 水野勝規

柳原義達の言葉

『孤独なる彫刻—造形への道標』(アルテヴァン、2020 年) より抜粋

T1 「ジャコモ・マンズー」、p.83

T2 「オーギュスト・ロダン」、p.22

T3 「アルベルト・ジャコメッティ」、p.47

T4 「私と彫刻」、p.138

T5 「私と彫刻」、p.138

T6 「私と彫刻」、p.141

T7 「アルベルト・ジャコメッティ」、pp.57-58

T8 「心の安らぎ大和」、p.174

T9 「鳩によせて」、p.112

T10 「孤独なる彫刻」、p.125

Y² project

水野勝規 刻まれるとき、揺らぐかたち

2026 年 9 月 1 日 (火) - 12 月 27 日 (日)

会場 三重県立美術館 柳原義達記念館

主催 三重県立美術館

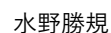
助成 柳原操基金・柳原義達顕彰事業

公益財団法人三重県立美術館協力会

協力 ARTCOURT Gallery、GALLERY CAPTION

水野勝規 刻まれるとき、揺らぐかたち

三重県立美術館 柳原義達記念館

柳原義達

Y1	山本恪二さんの首	ブロンズ	1940年
Y2	バルザックのモデルたりし男	ブロンズ	1957年
Y3	立女	ブロンズ	1957年
Y4	裸婦立像	ブロンズ	1957年
Y5	裸婦群像	サインペン・紙	1970年代
Y6	裸婦群像	サインペン・紙	1970-80年代
Y7	裸婦群像	サインペン・紙	1970-80年代
Y8	道標・鴉	ブロンズ	1970年
Y9	道標・鳩	サインペン・紙	1980年代
Y10	道標・鳩	ブロンズ	1981年
Y11	道標・鳩（長寿の鳩）	ブロンズ	1981年
Y12	道標・鳩	ブロンズ	制作年不詳
Y13	座る女	ブロンズ	1958年
Y14	道東の四季・秋	ブロンズ	1977年